

第3回ふるさとパンフレット大賞 選考委員からのコメント

★選考委員長 南 伸坊 氏

【総括】

「ふるさとパンフレット大賞」も第3回目となって、前回、前々回にも増して力作が揃うようになりました。賞ねらいで力を入れているところも出てきたという話で、審査員としては、とてもうれしい、ありがたいことです。各賞の受賞作は、それぞれにすばらしいところがあります。思いきりのいいデザイン。奇抜なスタイル。文字情報で押した文庫本風。1P ずつで観光スポットを紹介した斬新さ。観光より人を押し出した編集。社会科の教科書みたいな作り。ギャルにターゲットを絞った編集。外国の観光客をねらった作り。それぞれにユニークで意欲的な秀作が出来ました。この動きがさらに広がっていったら、とたのしみですね。

【個人賞】

ひろげれば新聞スタイルで、ウラはポスターに、形式が斬新だしデザインが新鮮で力強い。折りたたんでペタリと綴じたシールもいいです。

新しい「形」を発明した。そのことを激賞したい。

★選考委員 楓 千里 氏

「ナカガワのナカガワ」はまず表紙に惹きつけられました。漢字の中川を斜めストライプにデザインし、バックに広がる中川の山々の写真を組み込んでいます。今まで見たことの無い斬新さにびっくり。頁をめくると、中川町を舞台にしたショートストーリーが続き、木こり、木工作家、地球環境学博士、味道家、町役場職員の働く姿が眩しく登場します。パンフレットでありながら、中川町劇場で上演中の中川町物語だと気づくのは、無人駅が掲載された最終頁に辿りついた時。なるほど「ナカガワのナカガワ」なのです。中川町を訪れて、登場する役者さん達には是非会いたいと思わせてくれました。満場一致で選ばれた大賞の福井市観光ガイドは、デザイン、企画とも大変優れていますが、何よりも澁刺としたコピーが秀逸です。福井を知り尽くした方が、福井の様々な表情にじっくりと向き合いながら、考え抜いた言葉。言葉の力で地域を伝える大切さを教えてくれる作品です。

★選考委員 パックン 氏

自分が審査委員じゃなくて、パンフレット製作担当者だったらどうアプローチするかな。

愛する場所を紙の媒体でアピールするにはどんなアプローチが一番いいだろう？プロのカメラマンの傑作写真を高そうな紙にバーンと大きく載せ、詩人や偉人の名言を添えるのか？それともスナップショット的な写真で、地元の方々の笑顔と共に、方言をフィーチャーした素朴な一言を手帳型のものにまとめるのか？

この数年、審査しながら実感したのは、日本の地方の魅力も多々あるけれど、その見せ方も実に様々だということ。伝え方には正解がいっぱいある。今回もたくさんの素晴らしい作品を見ながら「日本の津々浦々をもっと訪れたい」、「もっと知りたい」と強く感じた。そして同時に思ったのは『日本のパンフレットをもっと見たい!』ということ。皆さんもドンドン手にとってみてください!

★選考委員 マックン 氏

今年も参加させていただきありがとうございます。3回目の選考委員会ですが、今年のパンフレットは女性へ、男性へ、歴史好きへ、芸術好きへ、スイーツ好きへ、などターゲットを絞ったものが僕の中で印象に残りました。何かに特化した見せ方は「今、我が町はこれを推している!」というのがものすごく伝わってきます。またQRコードを載せてインターネットと連動させたパンフレットも多かったですね。「一番伝えたいこと」と「見せたいもの」をパンフレットに載せ、その他の細かい情報はパソコンやスマホで紹介するという今の時代ならではの工夫も素晴らしいと思いました。まだ3年しか携わっていないのものすごく進化しているパンフレット。これからもどんどん進化していくと思います。が・・・正直、選考がどんどん難しくなっていくので困惑しております(^_^;))

★選考委員 地域活性化センター常務理事 岩崎 正敏

決して有名な土地ではないけれど、表紙の佇まいが気になって手に取って見たら、そこに暮らす人や日常の味などを髣髴とさせ、一度行ってみても良いかなと思わせる「やまがた旅図鑑」(岐阜県山県市)を選ばせていただいた。

大賞の「福井市観光ガイド」は、イメージの押し出しと詳細な個別情報を別冊とし、刺激と使い勝手を両立させた力作である。

優秀賞には、今さらながらと思いきや「へーそうだったのか」感を与える目黒区のもの、企画賞は、文字通りポケットに入れて訪れてみようという気にさせる丸亀市の文庫本版が選ばれた。

各委員賞は、パンフレットの概念を覆すもの、生活をほのぼのと主張するもの、クールジャパンの聖地を自認するもの、ターゲットを絞り込んで突っ込んだものと、多彩なパンフレットのそろい踏みとなった。

もしかすると、パンフレットの後ろにある思いや熱意を見ているのかもしれない。